

# 季刊 ふれあい .fureai



この冬のニコリ

新しくなった東3病棟で談笑する看護師。患者さんに寄り添った看護を！今日もがんばります！

## 特集 新しくなった東3病棟 産婦人科と乳腺外科、検査・放射線エリア

専門医シリーズ 目指すのは「よろず相談所」のような放射線科医 岡崎 百子 医師

## 虹の投書箱だより

埼玉協同病院に9時の予約あり8時30分に来院したが最後尾に並ぶとの事です。  
ふれあい生協病院もそうだし埼玉協同病院も、並び進みが遅く待つのが辛いです。もっと患者の身になり改善をお願いします。  
受付機も一台しかなく不便です。何とかありませんか？

外来受診に際して、ご不便をおかけして申し訳ございません。  
埼玉協同病院・ふれあい生協病院ともに、2023年8月14日より開院時間は8時30分に変更となりました。患者様の院内滞在時間を短くする取り組みを進めていますので、予約時間までのご来院をお願いいたします。  
また、再来受付機の台数については、今後継続して検討いたします。  
この度は、貴重なご意見をありがとうございました。今後ともよろしくをお願いします。(外来医事課課長 田中 紗代)

## たまねぎさんのプチコラム



### 産後ケアを利用してみませんか

産後ケアとは、産後のお母さんの心身を回復するためのサポートです。『寝不足で疲れてしまった』『授乳がうまくいかない』『初めての育児で不安』など、困っていることがあったらぜひ利用してみませんか。  
埼玉協同病院の産婦人科では、宿泊型・日帰り型・訪問型の全て

に対応しており、他院で出産された方も大歓迎です。産後の心と体は急激に変化します。さらに休む間もなく始まる慣れない育児…心身の疲れを感じたら、ぜひ一人で悩まずに、ちょっと休憩しに来てみてください。利用条件や利用料金は各市町村によって異なります。詳しくは、お住まいの市町村のホームページで『産後ケア』を検索してみてください。  
産後の“ちょっとひとやすみ”は人生のとても大切な休息です♪  
私たちは“子育ては大変、だけど楽しい♪”をサポートします！



## 増田院長のニコニコ Vol.35



今回のリニューアルの目玉の1つ、東3病棟の紹介です。  
本文にあるように、「女性の一生を支える病棟」である訳ですが、

産婦人科と乳腺診療を中心に、育児相談も含めて女性の心と身体を巡る多様な課題に総合的に応えていくという役割を持っています。これまでも個別の課題にはそれぞれ取り組んできましたが、それを1つのユニットで行うという、協同病院にとって初めての挑戦です。設備も刷新し、患者さんの療養環境は格段に改善しています。

この構想が決まってから、スタッフは地道に議論を重ね、準備してきました。一人でも多くの方に利用して頂きたいと願っています。  
当院が産科診療を始めた当初からのモットーが「地域とともに～産み、育み、看とる～」でした。その想いを体現するものとして、私自身も大いに期待しているところです。



## 特集

# 女性と家族の 一生を支える

## 新病棟での支援と思いやり 東3病棟がリニューアル

埼玉協同病院の東3病棟がリニューアル。  
どのような医療を目指すのか。  
4人のスタッフにききました。

### 新しくなった 東3病棟の特色

石川 今回のリニューアルにあたり大切にしたのは、出産や乳がん手術など女性の一生の中での大きなイベントに関わる医療に、よりきめ細かく対応できる療養環境を提供することでした。産婦人科に、新たに乳腺外科を加え32床の病棟としてスタートしています。出産・産後ケアの方、婦人科・乳腺外科疾患の術後や化学療法の患者さんを中心に、ベッドに空きがあれば他科の女性患者さんも受け入れています。トイレ・シャワー

付きが3床、トイレ付きが9床と、個室を大幅に増やしました。産後や術後の患者さんにも安心して過ごしていただける環境が整っています。  
萩原 妊婦さんに、負担が少なく安心して出産してもらえる新しい設備として、「LDR」を2部屋つくりました。Labor（陣痛）、Delivery（分娩）、Recover（回復）までを、移動することなく一つの部屋で行うというものです。同じベッドで、移動の負担をなくすることができるのが最大のメリットです。室内は、木調の壁や間接照明などを採り入れて、病院というより自分の家にいるような雰

トイレ・シャワー付きの個室。差額ベッド代はいただきません。

石川 幸恵  
(助産師)



洞口 藍  
(助産師)



小松 理恵  
(看護師)



萩原 なるみ  
(助産師)



### 信頼関係を築く スタッフの役割

洞口 妊婦さんも、婦人科系疾患の患者さんも、外来を受診しさまざまな経緯を経て入院に至ります。それまでの外来でのやりとりの中で、私たち医療者は、患者さんの考え方や家族への思いを聞き、生活背景などを知りながら、少しずつ信頼関係を築いていきます。もちろん、情報はカルテで共有されていきますが、同じスタッフが外来でも病棟でも関わることによって、患者さんに真に寄り添った切れ目ないケアが可能なのではないかと考えています。

小松 乳腺外科の外来では、がんの告知に看護師も立ち会います。手術をするかどうか、またその後どのような治療を選択するかという意思決

定の場面も含めて、患者さんの葛藤する様子を見ています。いつも、早い段階で患者さんに「病棟の看護師です。入院中もお会いしますのでよろしくお祈りします」とお話ししています。すると、ホッとした表情を返してくださる方が多いです。経過を知っている顔見知りの看護師が入院でも関わることによって、安心して治療に取り組んでもらえることにつながっていきたくと思っています。

### 退院後の生活にも 目を向ける

萩原 最初の受診から出産、そして産後ケアまで、同じ助産師やスタッフで関わっていくことが私たちの病院の強みです。ある時、いつも固い表情で怒っているような妊婦さんがいました。その様子に、産後に育児がちゃんとできるだろうかと、スタッフ皆が気になっていた方です。しかし産後の1か月健診に、別人のような笑顔で赤ちゃんを抱いてやってき



新しくなった病棟で初めての出産！

東3  
病棟  
East 3rd Floor  
New

て、「とても楽しんで育児をしている」と話してくれました。私たちはいつも、そういう「母になっていく」瞬間に感動します。スムーズに進むばかりではないかもしれないその長い過程に、じっくりと向き合いながら母子の健康を見守っています。

石川 患者さんの生活背景を知るなかで、経済的困窮や育児支援の必要性が見えてくる場合には、地域の保健センターや市の子育て支援課などと連携し支援につなげています。病院のなかで、病気を治す・お産をするということだけでなく、ご自宅に帰ってからの生活を支える視点を持つことも、この病棟の大切な役割だと捉えています。

### 女性とその家族の 一生を支える病棟

洞口 コンセプトは「女性とその家族の一生を支える病棟」です。なぜ「その家族の」と入っているの？と思われたかもしれませんが。例えば妊婦さんへの初診時の問診では、パー

トナーの喫煙状況や既往歴などについても伺い、「これから赤ちゃんが生まれるのだから禁煙してみましょう！」と両親学級などでパートナーの方に直接お話することもありません。妊婦さんだけに注目するのではなく、育児を支えてくれる家族の健康状態にも広く目を向けてケアしていきます。お節介かもしれないけれど、これは大切な要素なのです。

石川 これまでお話ししてきたようにこの病棟は、妊娠・出産、婦人科、乳腺外科を軸に、女性の一生を支えることを目指しています。そして、もう一つ先に見据えるものもあります。女性は、子育てや家族のことに追われて、自分の健康を後回しにしがちです。検診や受診も先延ばしにしてきて、子宮頸がんや乳がんの末期で見つかるケースも数多く見てきました。検診やワクチンを適切に受けて、早期での発見のために受診をする、女性が自分の健康にきちんと目を向けることを日常的に発信する場所にしていきたく思い描いています。

### 新しい病棟で！ 患者さんの声

- 乳腺外科の術後の入院で、洗面所やトイレで男性患者さんに会わなくて済むのは、とても安心でした。
- 女性患者の病棟だからかしら？スタッフがとても温かくてやさしい印象でしたので、安心して入院生活を送ることができました。設備が新しくきれい、快適でした。

# 東1階病棟 検査・放射線エリアが新しく!

New



北原 弘治  
(放射線画像診断科)

埼玉協同病院の検査・放射線エリアも新しくなりました。患者さんが検査を受ける導線がわかりやすくなりました。新しい検査機器も導入しましたよ。



大山 美香  
(検査科)

採血にきたら、受付票のバーコードを端末にかざして読み込ませてください。



採血の順番がきたら、モニターに番号が表示されます。



採血で不安のある方は遠慮せずお声かけください。



▲採血室  
ブースごとに患者番号が表示され、席がわかりやすくなりました。採血台も自動昇降でき、車椅子でも入りやすくなりました。



▲右側で心電図、動脈硬化の検査、左側で呼吸機能の検査を行っています。



▼血管造影装置  
血管内にカテーテルと呼ばれる管を入れ、造影剤を注入しながら血管の形状や病変部を観察する検査です。



▲マンモグラフィ装置  
乳房のしこりや石灰化のように触ることができない病気を写し出す検査です。

▼CT装置  
X線を用いて断面を撮影する検査です。画像処理で骨や心臓などの3D画像を作ることができます。



今年度中にMRI装置も新しい放射線エリアに移設します。



## 埼玉協同病院のリニューアル工事の進捗について

8月14日に新しくふれあい生協病院がオープンし、埼玉協同病院の東棟も新しくオープンすることができました。

6年に渡る長い建設事業の第一段階が終わりました。9月以降は、既存のD館の改修工事を行っています。そのため、総合受付や診療科の場所が大きく変更となり、患者様には大変ご迷惑をおかけしています。

D館改修は2024年5月まで継続となります。6月にはリニューアルしたD館病棟が南棟と名前も変更して、再オープンとなります。

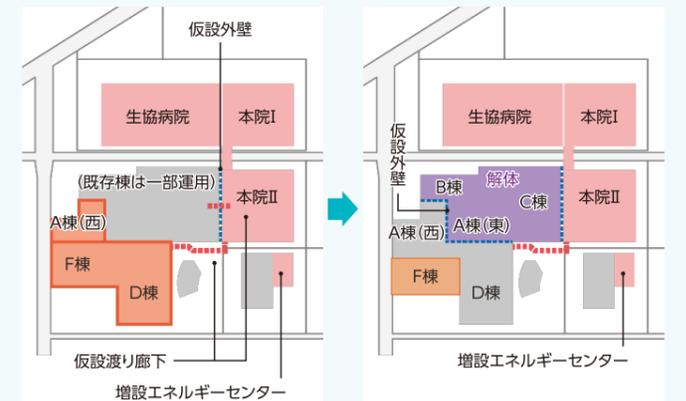
その後2024年6月から2026年の春にかけて、既存A・B・C館の取り壊し工事が始まります。

さらに敷地内の工事エリアが広がることから、病院を利用される皆様にはさらにご不便をおかけすることと思われまますが、ご理解、ご協力の程よろしくお祈りいたします。

改修工事の進捗状況については、今後もお知らせしていきます。

2023年6月中～2024年5月末  
A棟(西)・D・F棟を改修

2024年6月～2025年2月末  
A棟(東)・B・C棟を解体、F棟1階改修



A棟(西)1階、D棟、F棟1・4階を既存利用しながら改修します。解体部分と取合う箇所に先行して仮設外壁を設置します。

A棟(西)を残し、既存ABC棟の解体を一度に行います。解体をまとめて行い、騒音・振動などの既存病院への影響期間を短くします。

## データで見る医療の質

### 検査に求められる迅速性と精度

埼玉協同病院では、医療の質改善(QI)の指標を設定して、医療水準・質の面での改善目標を決めて取り組んでいます。今回とりあげる指標は、迅速で正確な画像診断に向けたとりくみについてです。

### 放射線画像診断に求められる迅速性、精度、安全確保

図1は、救急搬入患者の、頭部外傷や脳血管障害が疑われる患者へのCT撮影までの時間の平均を示したものです。2016年には60分を超えていましたが、救急車到着時から情報収集し準備を進めることで、平均で40分台まで短縮しました。しかし、新型コロナウイルスの流行以降、他の疾患との鑑別判断や、感染の有無を確認するための検査となるなど、長くなっているのが現状です。救急診療にあたる医療チームの連携が鍵となります。

図2は、X線撮影の精度の指標です。X線撮影では胸部や腹部など臓器の状態や、骨の異常の有無など、さまざまな部位の病変を鮮明に描出することが求められます。撮影した画像を医師に送信する前にダブルチェックを実施し、不適格な場合は再撮影することになります。埼玉協同病院には約30人の診療放射線技師がいますが、技師ごとの統計をとり、10%を超える場合には先輩技師が指導をしたり、部位ごとの学習などを行っています。少し古い統計ですが、全国の技師会の調査では、2019年の一般撮影の再撮影率は8.5%との報告があります。正確な診断と適切な治療につなげるため、全体として再撮影を減らすよう取り組んでいます。

図1 救急搬入から頭部CT撮影までの時間

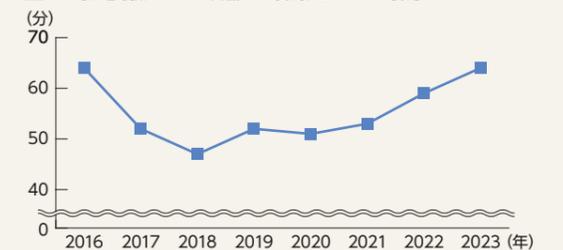
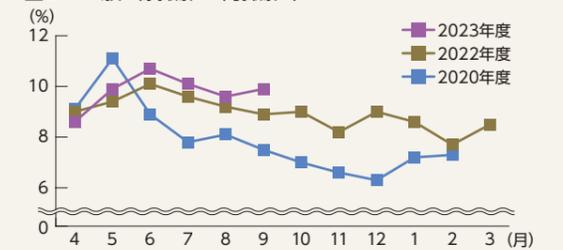


図2 一般X線撮影の再撮影率



### マイかてのご利用について

電子カルテの変更により、マイかてが使えない状況が続いています。もうしばらく期間を要する見込みです。ご不便をおかけしますが、その間は、必要に応じてカルテ開示で対応させていただきます。総合受付または総合サポートセンターにてお申し込みください。